



International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 10 No. 5 2010年 3月

鷺の宮卓話

所長 太田敬雄

賀川豊彦という男がいた。映画「賀川豊彦」で知っている人も居るかと思うが、1900年代の日本を代表する人物の一人と言って良いだろう。彼は牧師であり、貧民街に飛び込んで救済活動に尽くした人であり、小説『死線を越えて』や多くの短歌を詠んだ人物であり、生協活動を日本に導入した男である。二年続いてノーベル文学賞の候補になったこともある。

キリスト教会は信仰的な理由から胸像などは作らないが、生協の本部には今も賀川の胸像が飾られていると聞いている。戦後のアメリカではシュヴァイツァー、ガンジーと賀川が世界の三大聖人として取り上げられ、多くの都市に「カガワ・ストリート」と名付けられた通りがあった。戦後の日本の議会政治と政党の設立にも強いかかわりを持っていたと聞く。賀川は間違いなく日本の今日の社会形成に大きな影響を与えた人物である。

私の父は、賀川が中心となって大正10年（1921年）に発足したキリスト教の超教派の集り「イエスの友会」のメンバーであった関係で、私は子どもの頃に何度か賀川のお話を聞いたことがある。最後に会ったのは1960年の春、我が家でお目にかかったように記憶している。賀川はその年の4月23日に他界されたので、亡くなる直前に会ったわけだ。その年の夏に私はアメリカに留学したが、アメリカでは「賀川と会った事がある」というだけで羨望の目で見られることも何度かあった。

賀川の死の翌年、1961年9月に日本基督教団は「賀川問題協議会」を発足させた。賀川が1915年（大正4年）に発行した『貧民の真理研究』で使われている用語が差別用語であり、「賀川は貧民救済に尽くした人と言われてはいるが、実は貧民を差別した人物である」との主張だった。当時私は「賀川問題」は知らなかったが、アメリカで奴隷解放をしたリンカーン大統領が黒人差別者だとする主張に出会って驚愕していた。歴史上のことを今日の価値観や尺度で見ってしまうと本質が見えなくなる。

賀川問題はリンカーンのケースよりさらに卑屈で、大正時代に書かれたものを、賀川の死後一年ほどで取り上げて問題にしたのだ。強力な指導者であった賀川が死ぬまで待つバッシングしたとしか思えない。しかし、実はそのような事はこの世では日常茶飯事のように起きている。一人の人が大きな事をなし終えた後、その人物が居なくなると社会は逆の方向に振れ始める。例えば秀吉の時代が終わり、徳川の時代になって鎖国したのも良い例ではないだろうか。最近では小泉首相の郵政改革を今は必死になって逆改革にしようとしている感がある。私はここでどちらが正しいかを問題にするつもりはない。大事なものは、私たちの社会はそういう「振り子の揺れ」のような動き方をするものだという認識である。

そろそろ賀川の死後五十年程になる。彼の残した業績を客観的に評価しなおす時期だと思う。今、私は「イエスの友会」の中で小さな役割を担っているが、そこでしみじみと感じさせられていることは、「賀川信者になること」ではなく、「賀川の残した偉大な遺産を土台として将来に向けて平和な人間社会の発展を考えること」の重要性である。

多文化交流 in 釜山2010

2月18日から26日「多文化交流 in 釜山2010」を釜山外国語大学の日本語学科林（イム）教授と大学院生時代に台湾のプログラムに参加したことのある梶原雄先生の一方ならぬご協力、また先生方の指導で参加してくれた「韓日伝統文化研究会 “のびのび”」の学生諸君のお陰で、充実したプログラムとなりました。日本側の参加者は総勢15名でしたが、そこに“のびのび”のみんなが参加すると左の写真のような大所帯となりました。



このプログラムではホームステイと右の写真にある韓服（ハンボク）の着付けなど次々と貴重な体験をすることが出来ました。

さらに今年の八月、お盆明けに釜山外大生との第2回多文化交流 in 釜山を実施する事も決めて来ました。参加希望者は八月一七・八日頃から一週間ほど開けておいて下さい。始めての人も、前回参加した人にも満足して貰える充実したプログラムを計画中です。時期の関係で経費的には前回より少し高く、10万円前後となると思われますので、今から準備しておいて下さい。

☆インドネシアからの学生招聘事業☆

一昨年は冬の最中にイチャさんとウィラスティさんの二名を招聘出来ましたが、今年は三名を招聘出来るまで皆さまからのご寄付を頂戴しており感謝でいっぱいです。二名は研究所の招聘生として、また一名は植原さんのご厚意により「植原エファ招聘生」として迎えました。さらに一名が私費で来日する事となり、合計4名が3月15日に来日し23日に帰国するまで群馬と東京で過ごしました。

今回の来日者は私費来日のスルヤ君（Surya Saputro Hardjo Ali : 23歳・男性）、招聘生のピンキ君（Pinky Yustiar Rawansyah : 23歳・男性）とJJ君（Prima Jefriandy Manoradja : 22歳・男性）、そして「植原efa招聘生」として来日したプトリさん（Eirene Putri Suliyanto : 21歳・女性）の4名です。前橋の青柳旅館でのホームステイ、草津体験、安中でのホームステイ、都内でホームステイしながらのディズニーランド体験やショッピングなど盛りだくさんの企画がオーガナイザー関千景さんアシスタントの福崎結子さんのもとの整えられ、充実したプログラムを実施する事が出来ました。



歓迎会での一こま



和服姿の似合うインドネシアの四人



県庁で、研究所の会員、岩井議員と記念撮影

県庁のジオラマで遊ぶ

今回のように4人もの若者を受け入れることは毎回は出来ませんが、彼らの喜びの表情を見ているとこれからも招聘事業を続けていきたいと思えます。皆様の変わらぬご支援をお願いします。

「マナパル」報告 『いなかナイト』素敵な一夜

太田琢雄

多目的教育施設「マナパル」の開所と、2010年の幕開けを祝っての「ザ・多文化入門！いなかナイト」を1月29日に開催致しました。

テーマは「アメリカ文化とカントリー・ミュージック」。講師、いやMCは、長野県からおいで下さった清泉女学院短期大学准教授の中村洋一先生です！先生はアメリカの古い音楽（ルーツ・ミュージック）のオタク♪特に1930年代に活躍したThe Carter Familyが大好きで、ご自身が携わった高校英語の教科書に取り上げた程の熱の入れよう！当日は何体もの楽器やプロジェクター類を持参されて、お話・唄・演奏・機械操作など全て一人でこなしながら、参加者を楽しませてくれました♪日本の音楽の変換期・アメリカンミュージックの創成期1930年代・現在のアメリカの姿・「人生の一部」とまで言われるThe Carter Family・日本のフォークグループ〈紙ふうせん〉のお話に、歌に演奏、さらにはご自身出演の映画の一部上映までも交えた1時間30分！あっという間に過ぎてしまいました☆

先生の醸し出す雰囲気とその軽やかなトークに、満員のお客様からは自然に笑みがこぼれます。会の終了後には、珍しい楽器を囲んで子供たちの輪。とってもとっても、ハートウォーミングな空気に包まれた一夜でした。



赤ちゃんから御老人まで、総勢45名も参加してくれました♪

憲法と平和の維持

福田則行

実は、自分自身、どうも憲法9条のみの論点がずれて見えるのです。

双方熱い論述は受け入れられるのですが、僕は、崇高な日本の一員として、理想(憲法序章)を達成するためには、何が必要か?行動するのか?が、大切であり、その為に、手段として憲法が存在し、そもそも戦争を忘れた世代になった時におきがちで、根底(戦争がおきる理由)を忘れた無知無経験に近い日本人こそ、戦争をおこしかねない世代であり、憲法とは、自国内の戦争抑止に効力を発するものであると考えます。他国からの戦争回避を議論するならば、中立国なり、国連、国際法にうったえるなりの方法で、国家としての主張が必要のように思います。

戦争をしかける側と、しかけられた側は意見が違うわけですから、日本がしかける側にならぬ抑止力として、戦争の放棄という条文がしっかりとくる表現でつくられればよいと考えます。しかし、他から戦争をしかけられた場合、一個人がおこした行為であれ、日本人が死んだとしたら、テロではなく戦争と位置付ける人もいると思います。

同じ個人が亡くなったとしても、それが国を意識させられるものへの破壊によるものであれば、国民感情はメディアを通じて戦争、侵略行為として危機感をあおられると思います。戦争の放棄の一文は過剰な報復反応を抑止する事には有効ですが、相手の波状攻撃を抑止する事にはならないと思います。

9・11では、日本人も亡くなりましたが、事件がおきた場所がアメリカでなければ、日本人はもっと騒いだかもしれません。九条だけでは足りないぎろんであり、条約という外交も入れて議論しなければ、抑止にはならないと思います。

最後に、太田先生も木村氏も、言いたい事は同じである前提で二度拝読させていただきました。

国の外部環境も内部環境も、世界、国内の人の世代の移りかわりとともに意識が変わってきたわけですから、道徳観と歴史過程、他、必要なものを含め、教育過程を見直す時期のようにも思います。

今だ、大人が勉強しつづける事が重要視されておらず、ストレスから解放されたい欲求を満たす意味だけの自由という言葉が横行しやすい環境は、時限爆弾のような存在を増やすだけのように思います。法律が作られるには目的があり、法を超越した原点である理想主義が憲法的一条より先に存在する事を多くの人にしてもらいつつ、争いで死ぬ人がいる現状で、自分に何ができるかを考えてゆきたいです。

以下、日本国憲法1条より前に存在する文章を添付致します。

Nihonkoku Kennpou Constitution

We, the Japanese people, acting through our duly elected representatives in the National Diet, determined that we shall secure for ourselves and our posterity the fruits of peaceful cooperation with all nations and the blessings of liberty throughout this land, and resolved that never again shall we be visited with the horrors of war through the action of government, do proclaim that sovereign power resides with the people and do firmly establish this Constitution. (中略)

We, Japanese people, desire peace for all time and are deeply conscious of the high ideals controlling human relationship, and we have determined to preserve our security and existence, trusting in the justice and faith of the peace-loving peoples of the world. We desire to occupy an honored place in an international society striving for the preservation of peace, and the banishment of tyranny and slavery, oppression and intolerance for all time from earth. We recognize that all peoples of the world have the right to live in peace, free from fear and want.

We believe that no nation is responsible to itself alone, but that laws political morality are universal; and that obedience to such laws is incumbent upon all nations who would sustain their own sovereignty and justify their sovereign relationship with other nations.

We, the Japanese people, pledge our national honor to accomplish these high ideals and purposes with all our resources.

(憲法九条問題については他にも貴重な投稿を何通か頂いていますが、取りあえず福田氏の投稿を持ってこの議論にピリオドを打ちたいと思います。その上で、それぞれの立場から他の考え方や戦うのではなく、お互いの違いを理解しつつ、目標である平和な世界の実現に向けて手を携えて前進していきたいものです。)

Q：（07年9月～09年9月、海外青年協力隊の日本語教師として、中米コスタリカで暮らした荒井美幸さんにインタビューしました。）勤務先はどちらですか？

A：首都サン・ホセにある国立コスタリカ大学（日本でいうと東大です）文学部現代言語学科です。学生誰もが学部の枠を超えて受講できる、選択外国語科目の1つとして、日本語を教えていました。

Q：どんな授業をしていたんですか？

A：学生の能力に合わせて、全くの初心者対象のレベル1から（日本人の学ぶ中学英語程度の）レベル3まで文法を積み上げるカリキュラムでした。教科書以外の本、手作りのプリントや遊具なども使っていました。他の言語を教えるネイティブの先生方は、よく授業の手抜きをするんですが、真面目に授業を行う日本語教師は、学生からも評判が良かったんですよ。

日本語は覚える字の多さ等の難しさから、学期初めに100名程いた受講生も、期末には80名位に減ってしまいます。でも「言語オタク」なお国柄で、多くの言語を学ぶことを奨励しています。

コスタリカは欧米からの観光客も多く、英語・仏語が出来れば恐らく就職にも有利でしょう。でもまるで将来役に立たないかもしれない日本語を、一生懸命に学ぶ姿を見ると、彼らが日本に対して如何に特別なイメージを抱いているかが解ります。日本製品の品質の高さや国民性をとても尊敬してくれています。これこそ日本の底力です。私達日本人はもっと誇りに思っていると思うんですよ。

Q：それは日本人として嬉しいですね。やはり学生達の日本語学習のきっかけは、アニメなんですか？

A：それもありますが、ロールプレイングゲームの台詞を読みたい、と受講した学生もいましたよ。

Q：そんな学生達は、荒井さんの目にはどんな風に映りましたか？又、日本の大学生と比べて感じたことは？

A：私が今まで赴任してきた国（ブラジル、インドネシア）の中では一番真面目ですね。例を挙げると、宿題をきちんとやってくる、（ともすればいい加減になりがち）選択科目なのに真摯に取り組む、追試を重ねても次の学期には上の段階のクラスを受ける情熱がある、などです。その様子を目の当たりにすると、日本語教師としてのやりがいを感じますね。

日本の大学生と比べると、ピュアです。悪く言えば子供っぽい。まるで日本の小学生みたいです。文法の講義中なのに全然関係の無い、日本製TVゲームに出てくる言葉の意味を質問してきたり、板書している私に歩み寄ったかと思うと「かわいいでしょ」と携帯の写メを見せてくれるなんて事はしょっちゅうです。協調性がなくて大らかな学生達は、愛らしくて敵わないんです。

Q：コスタリカは、九州と四国を合わせた位の国土に60以上の国立公園や自然保護区がある、エコ・ツーリズムが盛んな国ですね。地球上に棲む全動植物の約10%が生息しているとも言われているとか。

A：ええ、とにかく自然が豊かです。観光化されていない手つかずの自然が沢山残っていますし（コスタリカ大キャンパス内の林の中には、野生の『ナマケモノ』がいる！）、それらの保護にも力を入れています。

海も山も楽しめますが、私は森に惹かれますね。特にモンテヴェルデ国立公園の熱帯雲霧林（ねったいうんむりん）は神秘的で、見えない力に溢れている感じ。長時間トレッキングしても全く疲れを感じないんです。歩くだけでリフレッシュ出来る、大好きな場所です。

Q：2月からは中欧のセルビアに赴任されるそうですね。これからの抱負を教えてください。

A：今までは大学で教えることが多かったのですが、セルビアでは外国語高等専門学校日本語学科という、タイプが違ったところなので、楽しみです。私は日本から初めて公的に派遣される日本語教師なのだそうです。粗相の無い様に努めたいです（笑）。「心の故郷」をもう一つ増やしに行ってきます。

Q：今度はセルビアのお話を聞かせて下さいね。今日はありがとうございました。

☆会費納入とご寄付のお願い☆

振込用紙を同封しますので、研究所の活動をお支え下さい。年会費は個人が2000円です。研究所の活動のためにご協力をお願いします。今年度の会費未納の方にはその旨を記した振込用紙を、すでにお振り込みの方にはご寄付用の振込用紙を同封させていただきますが、決してご寄付を強要するものではありません。

研究所の活動は、その出発時点では会員のための活動を主眼においておりました。しかし、10年近くの歴史の中で会員のための活動の範囲を超えて多文化理解のために会の外の人々に訴えていく活動に変わりつつあります。したがって、皆さまにお支払いいただいている会費も、会の活動に実際に参加していただける方々のためだけではなく、会員以外の方々に積極的に働き掛けるための資

金と変容しつつあります。多くの会の活動に参加出来ない会員にとっては、ニューズレター発行経費を除けば、会費は会の活動を支える寄付の様相を呈しています。その事をご理解の上、今後とも研究所の活動を支えていただきたいと存じます。

マナパルの活動も、そのような新しい活動の一つです。マナパルが経済的に自立できるようになるまで、皆さまのご協力を必要としています。

インドネシア人学生招聘事業も継続の予定です。このプログラムは全面的に皆様のご寄付に依存しております。日本語を積極的に学び、日本訪問を夢としているインドネシアの若者達のために新年度も宜しく願います。

さらに、現在研究所に印刷機と紙折り機を設置出来ないか検討しています。現在はニューズレター等の印刷には前橋まで行かなければならない状況で、そのために割かれる時間がかなり問題となっています。両方を同時に設置する事になりますと合計75万円程度必要になります。皆様のご理解とご協力をお願いします。

2010年 特定非営利活動法人 国際比較文化研究所総会案内

今年度の総会は2010年5月29日午後開催します。万象お繰り合わせのうえご参加ください。皆様のご意見を必要としています。

記

- 1、 日 時：2010年5月29日 3時30分～4時30分
- 2、 会 場：安中公民館（18号線を安中駅で降り、磯部方面に向かって四つの信号を超えて右側）
- 3、 議 題：2009年度事業報告、会計報告
2010年度予算、会計報告、事業計画、他

後日、改めて正式なご案内を差し上げます。会員の皆様にはこの日程を空けておいてくださいますようお願いいたします。

☆なお、当日午後1時30分から3時にかけて理事会を開催します。役員の方は宜しくおねがいます。

会費・寄付(2009. 12. 31. ~2010. 3. 25.)

敬称略、順不同で失礼します。なお、前回記載漏れがあり、別紙で挿入させていただいた方々のお名前を再度掲載させていただきます。またカッコ内はお振込みいただいた会費の年度です。二重にお振込みいただいた場合は次年度の会費としてお預かりしています。〈敬称略〉

〈新入会員〉 学校法人有坂学園（法人会員）、菅ヶ谷由美子。

>>>有坂学園はマナパルの太田琢雄の前任校、菅ヶ谷さんはマランでの多文化交流プログラムをコーディネートして下さっている菅ヶ谷マコさんの母上です。強力なメンバーの参加に多いに心強く存じております。

〈会費〉 荒井美幸(09,10)、江中八郎、奥田聖幸、林恵美子、岡田一恵、カイラン・ミックメーヒル(08,09)、久松優子(06-10)、前田浩、関根君子、小倉寿、長谷川昇。

>>>会費納入、有難うございました。研究所の活動を支え続けていただきありがたく感謝しております。研究所は皆さまのための研究所ですから、大いに活用していただけるよう頑張ります。皆様のご提案、ご協力を合わせてお願いします。

〈「インドネシアより招聘」指定寄付〉 菅ヶ谷由美子、前田浩。

>>>前号の総額記載にミスがありました。現時点での招聘指定の寄付額は603,330円となりました。細かい決算はまだこれからですが、来年度に向けて少し残すことが出来たようです。参加者の様子を見ていますと今後も是非インドネシアからの招聘プログラムは継続して参りたいと思います。次回の「多文化交流 in 関東」（と名称を変更して実施しました）にこれまでも劣らぬご協力をお願いします。

〈マナパル 指定寄付〉 関根君子、

>>>心から感謝致します。マナパル活動資金として大切に使用させていただきます。

〈留学支援金〉 櫻田佳容子

>>>エヴァンズビル大学の語学集中講座に留学しました。充実した留学となることを願っています。

Manapal まなぱる

10月の開設から半年、
コツコツと土台作りを続け…

2010年4月より、
本格始動です！！



研究所会員の皆様、群馬の若者たち、そして多くの地域の皆様のご理解とご協力のおかげで、
これだけの活動ができるようになりました！皆様、本当にありがとうございます！

①こども英会話くらぶ始動！

『小学校低学年向けクラス』…スタート前体験も終了し、4月10日に開始します♪

◇毎週土曜日 10:30～11:30 月謝 3000円 人数の増加に応じて増クラスも考えています！

◇担当の先生は研究所の活動でも大活躍してくれているサヨ先生♪

『未就学児向けクラス』…5月14日開始！事前体験は4月23日と24日に実施します☆

◇毎週金曜日 16:30～17:45 月謝 3000円 生徒は随時募集中♪

◇担当の先生は超ベテランのJUN先生♪とってもハイテンションな先生です☆

②英語教室（文法&会話）

『個別指導』…今年度もマナパルの土台として、小中高生を中心に行っていきます。

◇中学生、高校生、大学生、社会人と、いろんな生徒たちが通ってくれています♪

『小学校高学年向け・少人数制授業』…4月9日からリニューアルスタート！

◇毎週金曜日 17:30～18:20 月謝 4000円 10人枠を超える希望があり、増クラス検討中！

◇先生は英会話（未就学）のJUN先生が、小さな体でパワフルな授業を展開してくれます♪

③その他の活動

・様々な角度からの教育活動・教育支援活動を展開しています！

◇学童クラブの支援・協働 ◇留学相談・留学支援

◇進路相談（教育・社会奉仕活動の一環として）

◇生活相談（教育・社会奉仕活動の一環として）

①ご家庭・お子様に関する悩み ②子ども・若者たちの心の悩み（ニート、不登校支援含む）

◇若者支援活動（より多くの経験と、実りある時間の共有を！そして成長を♪）

…若者のための安中プチ留学企画実施中です。

マナパルの活動基盤は「教育」です。英語も含めた「他とのコミュニケーション能力」の育成が、
マナパルの最も重要な課題です☆ 育て、子供たち！育て、若者たち！育とう、僕ら大人たち！

詳細は…MANAPALのホームページ兼ブログへ遊びに来て下さい♪ 「まなぱる」で検索です！

<http://manapal.gunmablog.net>

著書紹介

☆『宮司が語る京都の魅力 ―日本人の心の源流を探る―』以前に雅楽と日本文化について後援していただいた、恵比寿神社第37代宮司の中川久公氏がPHP研究所から出版されました。日本の文化を語るために、あるいは京都に遊びに行かれる前には是非ご一読を！定価1,300円です。

☆『こんなに楽しい小学校英語 ワイワイ・メソッド』研究所会員で上智大学教授山本浩先生の奥さま、山本由美子さんが三省堂から出版されました。高円寺の小学校で5・6年生に英語を教えた経験をまとめられた一冊です。中学以前の英語教育に関心のある方にはご一読をお勧めします。定価1,300円。

所長活動記録：

この一年の所長の日記を記してみます。年間30週程ほど月曜から木曜まで日替わりで大学へ講義に行きましたが、その他にこの一年、下記のような活動をしてきました。大学関係、キリスト教関係の通常活動は省略します。
◇今年度は22009年3月31日の釜山への下見旅行から始まった。許平康さんとその母上の案内で4月4日まで韓国滞在。「多文化交流 in 釜山」のための良い準備となった。◇4月23日：研究所の税金免除の申請で県税事務所へ。
◇4月29日：安中教会の教会学校生徒のタケノコ掘り。タケノコは掘ってもらうことで竹林が健康を保ちます。
◇5月16日：日本福音学校講師として上京。◇5月17日：木村氏、幸田氏、森泉氏、伊藤氏でIIMS監査。太田家で。◇5月31日：研究所理事会ならびに総会。◇6月6日：大学教育学会でラウンドテーブル「放送と大学」のパネリスト。◇6月13日：日本比較文化学会年次大会出席。◇6月17日：高崎市国際交流協会、講師。◇6月20日：NPO協議会総会。◇6月26日：安中市東横野公民館にて人権教育に関する講演「春樹と真知子のすれ違い」。
◇7月14日：高崎のパス大学の授業で講演。若者との交流は大きなエネルギーを与えてくれます。
◇8月5日：午前5：30ビューホテルにて「高崎市倫理法人会」講演。◇高崎経済大学にて「多文化交流 in マラン2009」オリエンテーション。◇8月11日-19日：「多文化交流 in マラン2009」実施。◇9月12日：日本比較文化学会東北・関東支部合同例会（於：東京未来大学）。◇8月24-26日：高知大学大学院集中講義「現代日本文化論」。◇日本放送芸術学会シンポジウム「ラジオの魅力と可能性」パネリスト。（京都）◇留学支援。大学生男子。◇留学支援：高校生女子。◇インドネシアよりフェニー成田着。◇10月23日：NPOコミュニティ・ビジネス起業家育成コース講師「国際交流について」。◇フェニー帰国成田まで見送り。◇10月29日研究所主催「冷泉公裕コンサート」（於：メリットハウス）。◇11月16日：高崎デニーズにて朝日印刷と翻訳の打ち合わせ。県内観光協会のHP英語訳を受託。3名の方に翻訳依頼。興味がお有りの方は県内の観光協会のHP、英文の所をご覧ください。
◇11月5日：日本比較文化学会関東支部例会（於：パス大学）。◇12月12日：大塚英語教育研究会で講演「他文化理解」。◇12月17日-20日：台湾日本語文化学会の招聘を受けて出席。パネリストを務める。
◇1月14日九州ルーテル学院大学にて講義。◇1月22日：同志社大学「多文化コミュニケーション学の応用」で「言葉と文化」について講演。◇1月29日：研究所主催、「マナパル開所記念」として「アメリカ文化とカンントリーミュージック」開催。講師は中村洋一先生。◇吉岡文化センターにてテニス教室の生徒の親たちに講演「Yes, we can」。◇2月18日-25日：「多文化交流 in 釜山2010」実施。◇3月13日：日本比較文化学会関東支部例会出席。◇3月15日留学生送り出し。（成田）◇同日19日までマランの招聘生プログラム「多文化交流 in 関東」参加者4名を成田出迎え。前橋、草津、安中と同道。22日には東京で二日過ごしたメンバーと成田で合流、23日送り出し。◇3月24日：NPO協議会役員会。（前橋）◇3月30日本放送芸術学会役員会（於：キャンパスプラザ京都）。

2010年度は大学での講義が四校から三校に減り、授業コマ数も週12コマから7.5コマに減ります。これからはもう少し研究所の活動に力を注ぐ余力が出来るのではないかと期待しています。ただし、その他の講演活動などは研究所のモットーである「相互理解に基づく平和な地球社会の実現」のために、どこにでも出かけていく決心しておりますので、宜しければお声を掛けていただければと思っております。日程の調整が出来れば、後は交通費だけ工面していただければ掛け付けさせていただきます。

お詫びと訂正：前号のニューズレターを Vol.11 No.1 としましたが、年度で記しておりますので、正しくは前号が Vol.10 No.4 となります。ご訂正をお願いします。

編集後記：色々と手間取り、2009年度最後のニューズレター発送が4月に入ってしまった。2010年度も宜しく願います。（TK）

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3
電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393
e-mail：mtharunac@xp.wind.jp
HP：<http://www8.wind.ne.jp/mthac>
郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所